

ごあいさつ

早いものでして今年には南摩城カントリークラブが昭和 50 年に開場しましてから 40 年目の年にあたります。

また、2015 年は戦後 70 年目の年でもあり、当クラブが誕生したのは日本が終戦後の荒廃から奇跡の高度成長を成し遂げ、安定成長期へと移行しつつある時期とも重なります。

その後は貿易黒字の拡大、バブルの崩壊、デフレ経済、東日本大震災という激動の時代を経て今日を迎えるに至りましたが、このような時代を乗り越え、皆様方と一緒にこの記念すべき 40 周年を迎えることができますことを心より喜ばしく思っております。

昨年日本の経済は消費税増税、夏場の天候不順等の影響から個人消費は伸び悩みましたが、円安、株高等に伴う企業収益の増加に伴い雇用、所得環境は改善し、景気は緩やかな回復の動きを続けました。今後も政府の成長戦略によるところが大きいとは思いますが、景気の回復傾向は続くものと期待しております。

ゴルフ業界を振り返ってみますと、昨年は、入場者数においては 2 月の大雪、4 月からの消費税増税、夏場の天候不順等がありながらも順調に推移しました。

しかし、現在、プレーヤーの中心をなしているのは団塊の世代を中心としたシニアゴルファーの皆様方です。まだまだ活動的にゴルフを楽しまれていますので、当面はゴルフ需要が大きく落ち込むことはないと思われませんが、やはり将来を考えますと 50 歳以下のゴルファーがプレーヤーの主力となって行ってもらい、女性ゴルファーのさらなる御参加を促していく取り組みがゴルフ業界全体として必要になってくると思います。

幸い、昨年 9 月には世界アマチュア選手権が日本で開催され、来年の 2016 年にはリオデジャネイロオリンピックでゴルフが正式競技に復活するなど明るい話題も多く、2020 年の東京オリンピックに向けて新たなゴルフブームの到来を期待して止みません。

又、それと同時にゴルフ業界発展のためには、ただ単に皆が憧れを頂くヒーローの突然の出現に期待するだけではなく、将来世界で活躍できるジュニアゴルファーを地道に育成することが必要です。

そのためには学校の授業、またはクラブ活動の一環としてより多くの学校にゴルフを取り入れてもらい、敷居の高い大人のスポーツから野球やサッカーなどと同じ身近なスポーツとしてゴルフの楽しさを子供たちにアピールしていく取り組みも大切になってくると思います。

幸い、料金の面でも、イメージの面でもゴルフを始める際のハードルはかつてと比べ随分と低くなったと感じています。これを機会により多くの幅広い年齢層の方々がゴルフというスポーツに参加され、2020年の東京オリンピックの際には表彰台で日本選手団の笑顔が多くみられますことを今から心待ちにしております。

私も開場40周年を機に南摩城カントリークラブをより一層発展させるべく、さらに努力を重ねていく所存でございますので、皆様方におかれましてはより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

南摩城カントリークラブ

理事長 岡地 晃嗣